

小倉山通信

自立心と共感、創造力に満ちた角館中学校

平成29年8月31日(木) No.21

全国学力・学習状況調査の結果が公表されました

8月29日(火)の新聞報道等でご存知のとおり、4月18日(火)に実施された、全国学力学習状況調査の結果が公表されました。

3年生を対象として行われたこの調査は、学力面では国語A(主として知識、32問)、国語B(主として活用、9問)、数学A(同36問)、数学B(同15問)で行われました。秋田県は小中学校の国語AB、数学ABの平均値が、いずれも全国3位以内となり、10年連続全国トップ級の成績を収めたとのことでした。

本校はいずれの調査も全国平均を上回り、秋田県平均とほぼ同じ結果となりました。

以下に概況をお知らせしますが、課題となった内容については、早急に改善のための指導を行いたいと思います。

国語Aでは漢字の読みの問題で96%~100%(秋田県97.1%~99.4%)の高正答率となった他、「目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと」や、「目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えにまとめること」についての設問でも94%~97%(秋田県92%~95%)の正答率となりました。一方、「事象や行為などを表す多様な語句について」の設問では正答率が40%(秋田県46%)にとどまり、今後の指導上の課題となりました。

国語Bでは、「登場人物の言動の意味を考え、内容の理解を問う問題」で正答率91.1%(秋田県89.9%)であったのに対して、「比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」に係る設問では、正答率が38.9%(秋田県49.6%)と非常に低い結果となりました。

数学Aでは「一元一次方程式を解く問題」で正答率94.4%(秋田県88.4%)、「円錐の回転体としての構成の理解を問う問題」で94.4%(秋田県91.8%)、「与えられた比例の式について、必要な値を求める問題」で94.4%(秋田県89.1%)となりましたが、「扇形の弧の長さを求める問題」では正答率35.6%(秋田県34.2%)、「錯角の意味の理解を問う問題」では正答率35.6%(秋田県37.6%)と今後の指導が必要な状況となっています。

数学Bでは「与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができるかを問う問題」で正答率95.6%(秋田県94.8%)となったのに対して、「二つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができるかを問う問題」では正答率12.2%(秋田県16.6%)となり、国語・数学の全設問を通して最も低い正答率となりました。

学習習慣や生活習慣、学校生活等について問う「質問紙」については、「している・当てはまる」と「どちらかといえばしている・どちらかといえば当てはまる」という肯定的回答を選んだ生徒の割合で大まかな傾向をつかんでいます。例えば、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「学級みんな協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」などの設問では、90%以上の肯定的回答がありました。

一方「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に対する肯定的回答の割合は48.8%と低く、この点が課題となっています。